

優秀賞作品の審査員長講評



新潟食料農業大学学長
渡辺 好明 審査員長

酒井 夏妃さん

特に素晴らしいのが、感謝の表現ぶりには、人それぞれに違いがあるということです。これも多様性ということになるのですが、自分の事を客観的に見て、思春期や反抗期の中で、本当はもっと率直に表したかったという思いを込めながら、文章を展開しているところが優れています。感謝ぶりにも個性があり、その表現ぶりにも個性がある。また、母親への感謝の気持ちとその具体的な表し方について躊躇があるという、複雑な気持ちがよく分かるものでした。感謝は、「秘すれば花なり」という世阿弥の言葉に出てくるものでは、むしろ言葉に出さない方が一層わかる、「表に出さなくても分かるだろう」というのもあるけれども、今はボディランゲージ、スマイル、thank you、お手伝いなど、様々な事で表す手法があると思います。簡単そうで実はなかなか出来ない、しかも思春期の中学生ではなかなか出来にくいということを良く整理されたと思います。

平野 愛己さん

良かったですね。なるほど、こういう風に考える人もいるのかと思いました。平野さんの主張はとても優れていて、発表ぶりもよかった。また、内容はみんなが賛同できますし、多くの方々の共感を呼ぶことはまず間違いありません。私は、文章の中で何回か出てきましたし、お母さんも言っていた「介護はカッコいい職業」、「介護は素敵だ」という表題での第2作目を聞きたいと思っています。お母さんのすすめ方はなかなか上手ですね。家庭で、家族でこのような話をしているのかと。文章の構成も、人を驚かせておいてから、実はという流れで中身に入る、これはとてもよい手法だと思いますし、結論部分がやはり社会問題、社会の課題としての大切になってくる、これで締めたのは将来に繋がるよい発表だったと思います。